

令和7年度山形県公私立高等学校協議会の概要

1 日 時

令和7年11月25日（火） 午後1時30分から午後3時10分まで

2 場 所

山形県庁 1502会議室（一部委員はオンラインで参加）

3 出席者 ※敬称略

出席委員8名

玉手英利、渡邊晃、九里廣志、関義人、加藤咲子、花屋道子、渡辺伸子、大沼賀世

4 報 告

（1）令和7年度公私立高等学校の入学状況について

- 令和7年度公立高等学校の入学状況、私立高等学校の入学状況について説明（事務局）

5 協 議

（1）公私立高等学校の収容定員について

- 今年度の収容定員の状況について説明（事務局）
- 私立高等学校の収容定員の考え方等について発言（私学代表委員）

《意見の概要》

- 本県の私学の傾向としては、全日制高校に通えない生徒をサポートするため通信制課程を設置する事例が増えている。子どもたちの力をどうやってつけていくことができるのか、私立学校の非常に大きな課題である。
- 文部科学省が進めている理系人材の確保について、高校教育ではどう対応するのか定員の見直しとともに考えなければいけない。また、デジタル人材を育てるためのインフラ整備が課題であり、先を見越した取組みや情報収集が必要である。

（2）海外との交流について

《意見の概要》

- 若い時の海外経験は、大変貴重。カルチャーショックを受けるだろうし、コミュニケーションツールとしての言語には背景の理解が必要と認識できる。若いうちに経験してほしい。
- カルチャーショックを受けるほどの体験を通じ、異文化理解や価値の相対化を学び、折り合うことを知る経験をする必要がある。交流期間の短さを補完するためにも、準備学習や振り返りを充実するとよい。
- 受験英語だけではなく、国際社会で優位性のある言語に触れるなど、子ども達の未来を作っていくという教育の使命を果たしていくべき。
- 多くの子どもたちに海外経験をしてもらいたい。高校生が交流を通じて、文化を学ぶことは大切。

以上